

水島の過去・ 現在・未来

水島再生プランの自主アセスの取組から

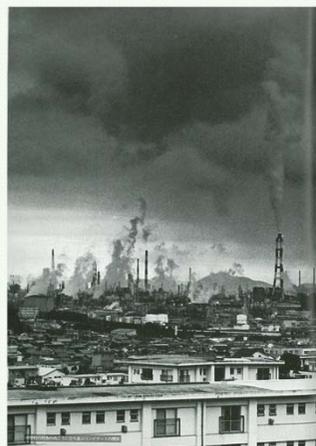
水島再生プラン 1995年／倉敷市公害患者と家族の会

- ①コンビナート開発による激甚な大気汚染公害を経験(1960年代～)
- ②公害責任を明らかにするために裁判を提訴(1983年、1994年地裁勝訴)
- ③訴訟の成果を地域の次世代につなぐ地域づくり提案(1995年)
- ④高裁での和解金(1996年)を基金に提案実現を託す財団を設立(2000年)

1950年代の水島地域



現在の水島コンビナート



Sustainability Assessment by Citizens

Approaches to Voluntary Assessment in the Regional Revitalization Plan by Pollution Victims

藤原園子、塩飽敏史(公益財団法人水島地域環境再生財団)
傘木宏夫(NPO地域づくり工房)



水島の過去・ 現在・未来

水島再生プランの自主アセスの取組から

水島再生プラン

1995年／倉敷市公害患者と家族の会

- ①グリーンベルトでコンビナートをつつむ
- ②まちに賑わいの拠点を
- ③健康・福祉のまちづくり
- ④芸術・科学をテーマに
- ⑤原風景・原体験を大切に
- ⑥水島臨海鉄道の延伸
- ⑦海辺・水辺を住民の手に



水島再生プラン 7つのテーマ

よみがえれ 水島のまち 公害のま
ちから緑と水、賑わいのまちへ



Sustainability Assessment by Citizens

Approaches to Voluntary Assessment in the Regional Revitalization Plan by Pollution Victims

藤原園子、塩飽敏史(公益財団法人水島地域環境再生財団)
傘木宏夫(NPO地域づくり工房)



水島の過去・ 現在・未来

水島再生プランの自主アセスの取組から

再評価を踏まえて、水島再生プランを継承し、2030年を目標とした実行計画、評価指標などをSDGsとの関係で整理し、「2030年の水島 こうなったらいいな」と題して、財団20周年に合わせて発表。



定期的に、進捗について自己点検を行う。

2030年の水島 こうなったらいいな

2021年

提案	2030年の水島、こうなったらいいな	評価指標	SDGs
1 グリーンベルトでコンビナートをつつむ	◎商店街内の未活用空間や基幹公園が樹木に覆われた緑地になり、緑多い水島のまちづくりを進める。 ◎産業部門での大幅なCO2排出量削減を実現するために、既存技術を生かした設備更新や、再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入を進める。	岡山県内のCO2排出量 ・現状（2015年）：4,939万t ・2030年：1,975万t	15 13
2 まちに賑わいの拠点を	◎水島で学ぶ若者が、歴史や過去の経験から学び、地域の魅力を発見し、新しい価値を創造できるようにする。 ◎学びを支える人・資源・情報が集まるようにする。未来をつくりだす学びの拠点（資料館、交流館）の整備。	水島地域で提供できる学びのプログラムの数 ・現状（2019年）：12件 ・2030年：30件	11 4
3 健康・福祉のまちづくり	◎地域住民が主体的に実施する肺年齢測定等を通じて、COPDや呼吸器ハビリテーションのことであり、早期発見・治療の取り組みが進み、健康的に暮らせる街。 ◎他地域からの移住者、一人暮らしの高齢者、子育て世代などが孤立しないよう、支え合うしくみづくり。	CUPID（慢性閉塞性肺疾患）の認知度 ・現状（2016年）：38.7% ・2030年：50.0%	3 11
4 芸術・科学をテーマに	◎みずしま滞在型学習コンソーシアムで長期滞在プログラムを整備し、企業では国内外の若者が科学技術や環境対策技術を学ぶことができる。 ◎若手のアーティストが大学と連携し、創造的な活動のできる地域と認識されることで、移住・定住する人が増える。 ◎地域から新たな技術や文化の発信を進める。	大学生・留学生の研修受入数 ・現状（2018年）：275人 ・2030年：600人	4 9 17
5 原風景・原体験を大切に	◎農漁業の作り手と買い手をつなぐ仕組みができるようにする。適正な価格での買取がされるなど、地域の小規模な農漁業が、経済的に成り立つようになる。 ◎水島学講座で、干拓の歴史などを学び、海抜が低いといった地域の特性を知ることによって日ごろの備えを見直すなど、防災・減災への意識を高める。	水島学講座の開催数 ・現状（2017年）：7回 ・2030年：12回	12 4 15
6 水島臨海鉄道の延伸	◎水島臨海鉄道を地域の基幹交通として、地域内をつなぐコミュニティタクシーが使いやすい形で整備され、高齢者も移動に困らない地域になるようにする。 ◎気候変動への対策として、環境負荷の少ない移動手段の実現に向けて、低公害車（電気自動車）バスが導入される。	コミュニティタクシー利用者数 ・現状（2019年）：234人 ・2030年：360人	11 13
7 海辺・水辺を住民の手に	◎水島周辺の海辺や水辺が学びのフィールドとして活用されるようにする。その取組を行政、企業、NPOが協力して支援する仕組みづくりを進める。 ◎八間川の川幅を広げ、傾斜護岸をすることで、親水空間としての機能と、豪雨等災害時の遊水機能が確保される。 ◎高梁川から流入する海ごみの減量化を進める。	海ごみについて学んでいる人の数 ・現状（2019年）：450人 ・2030年：720人	14 17

Sustainability Assessment by Citizens

Approaches to Voluntary Assessment in the Regional Revitalization Plan by Pollution Victims

藤原園子、塩飽敏史（公益財団法人水島地域環境再生財団）
傘木宏夫（NPO地域づくり工房）



グリーンベルト(緑の木)でコンビナートを包む



CO₂排出量
の削減

緑の木々でCO₂の吸収を図ったが
0.005%内外の削減に留まった。

コンビナートからの排出量そのものを
減らす方向性にシフトする必要がある

グリーンベルト(緑の木)でコンビナートを包む

15 陸の豊かさも
守ろう



2030年の目標

2013年度比
60%減

県の行動計画

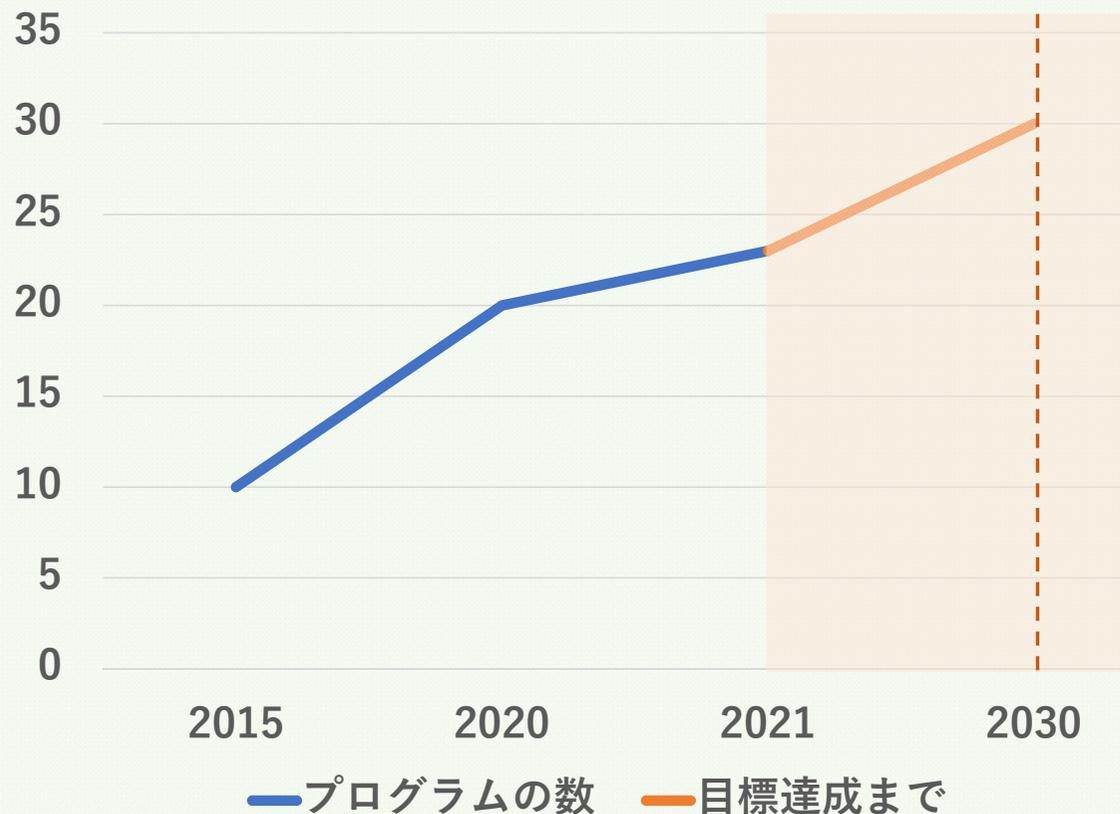
2013年度比
39%減

目標が低すぎるのではないか？

まちに賑わいの拠点を



水島地域で提供できる学びのプログラムの数

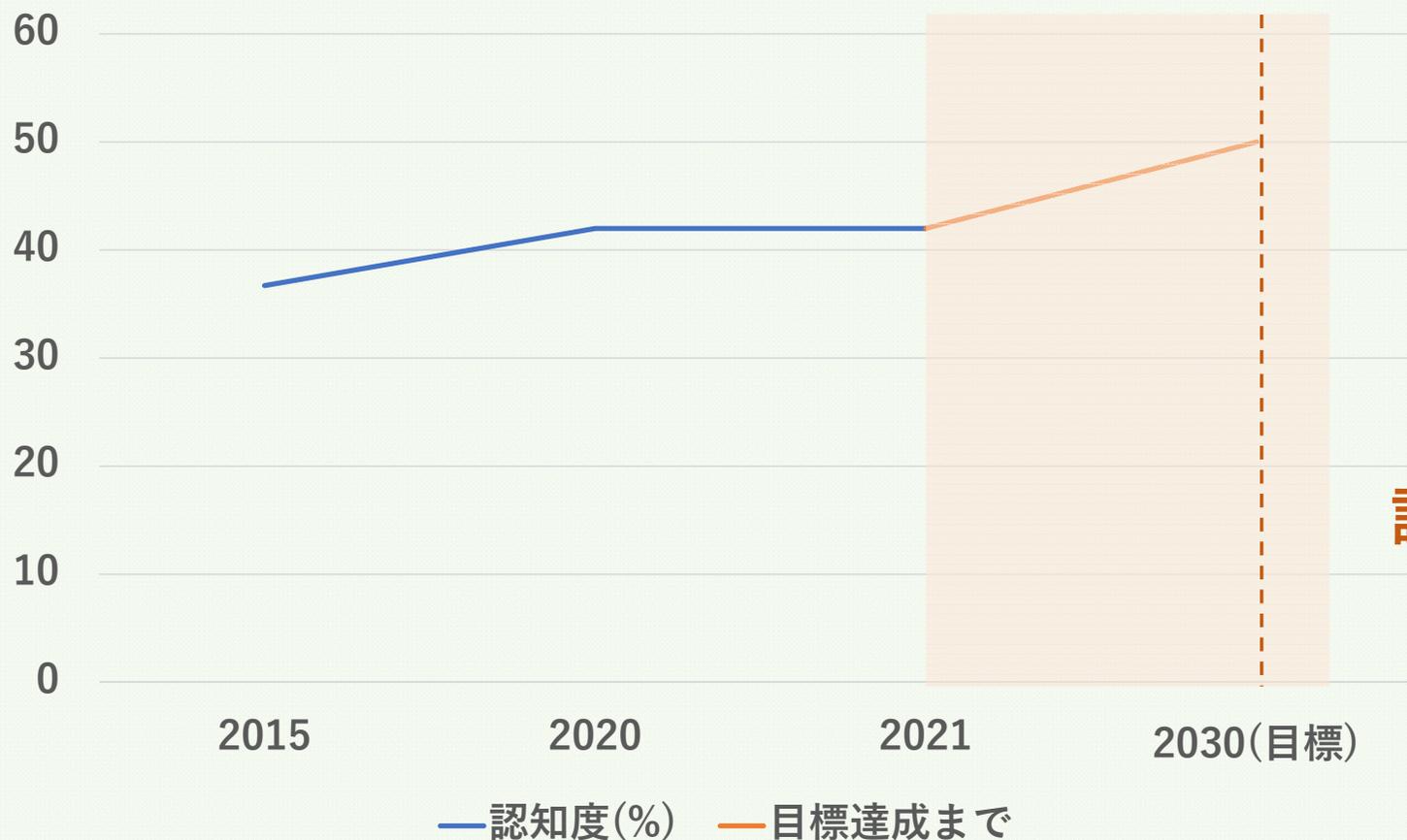


1. 水島の公害から学ぶ
2. 鴨ヶ辻山でのレクチャー
3. 亀島山地下工場から学ぶ
4. 医学生・医療従事者向けコース
5. 呼吸リハビリ講座
6. フードマイレージ買い物ゲーム講座
7. 海ごみ講座
8. 八間川調査
9. 海辺の生きものしらべ
10. 漁業体験（寄島、黒崎）
11. 海ごみ・川ごみ調査
12. ビーチグラスアクセサリーづくり講座
13. 地球温暖化防止
14. 防災
15. 水島学講座（歴史編、国際編）
16. 水島コンビナート エコツアー
17. SDGsのまちづくり
18. 倉敷市の大気環境
19. 水島エコクルーズ
20. 協働によるまちづくり・まち歩き
21. 「水島の公害と未来」を活用したフォトランゲージ
22. 地域カフェ

健康・福祉のまちづくり



COPDの認知度



2020年と2021年では
認知度は変わっていない

芸術、科学をテーマに



大学生・留学生の研修受け入れ数



2015年に初めて
修学旅行受け入れを
行ったが、継続実施には
至らなかった。

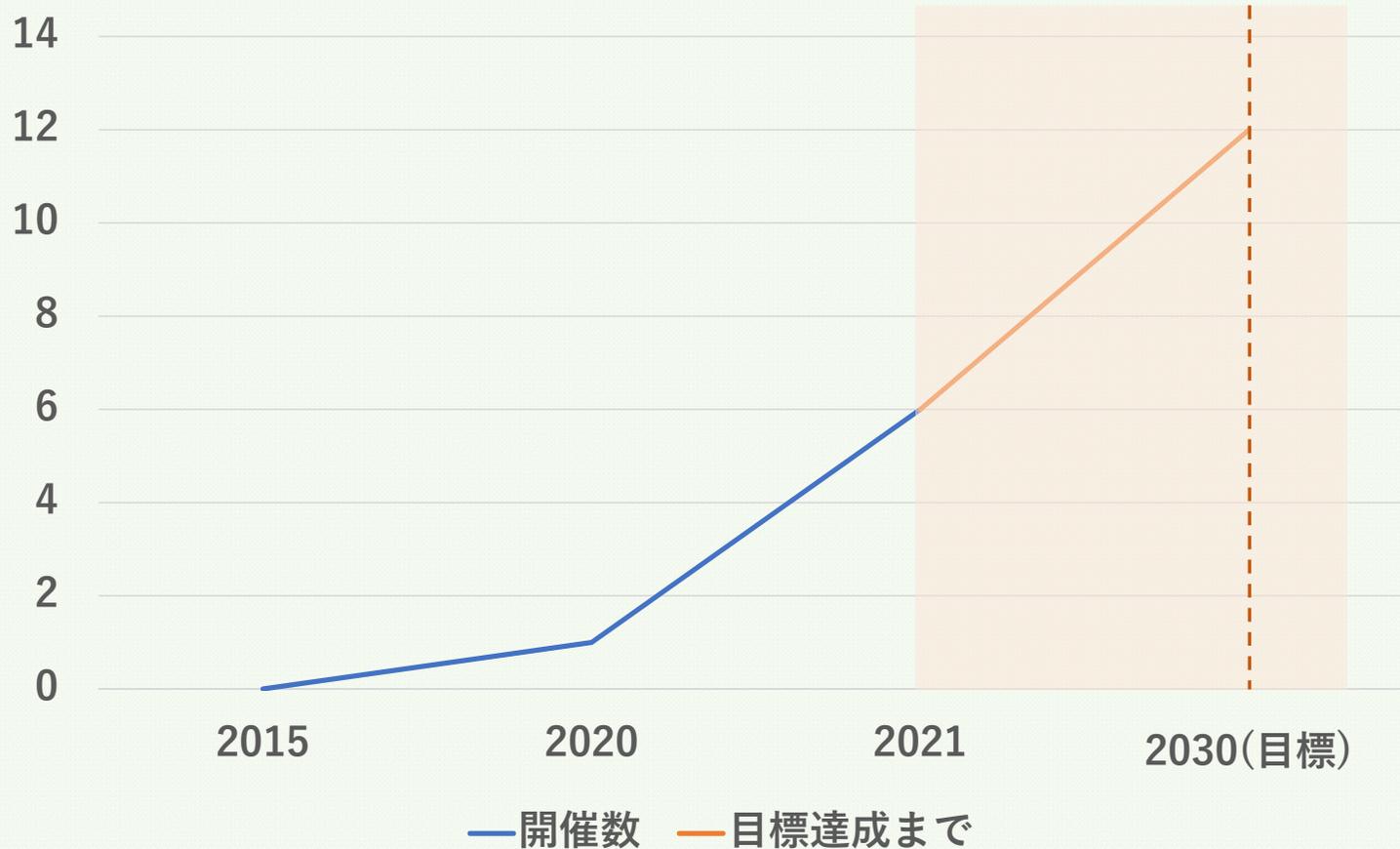
2020年、2021年は
新型コロナウイルス
感染拡大の影響で
キャンセルが相次いだ。

原風景、原体験を大切に

12 つくる責任
つかう責任



水島学講座の開催数



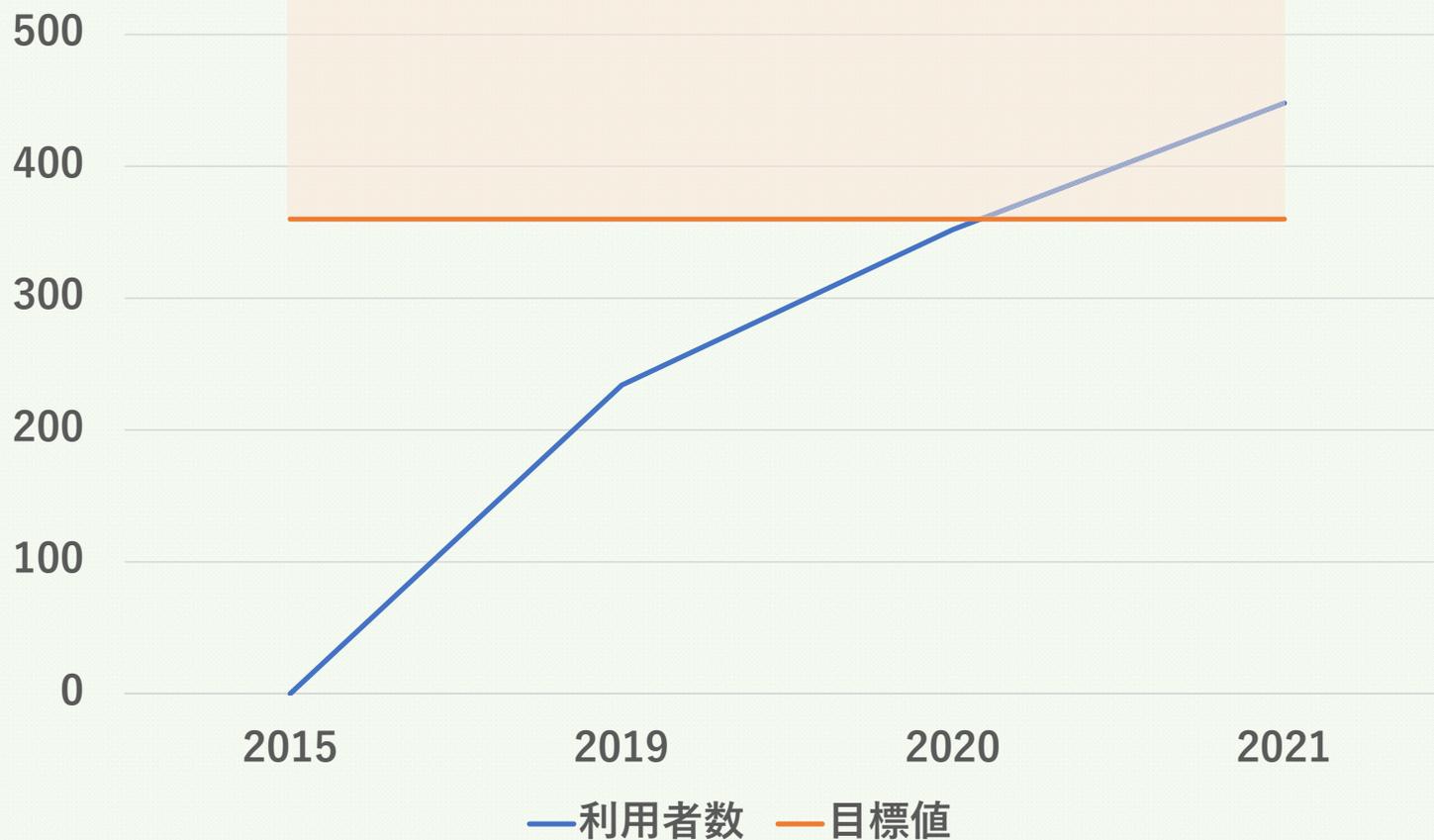
水島学講座

2016年から開催。
“歴史編”
“観光編”
“みずしま地域カフェ”
“地域サロン”
など

水島臨海鉄道の延長



コミュニティバスの利用者数



2030年目標値の
年間360人を
達成している

今後も達成
できるよう
普及に努める

海辺、水辺を住民の手に



海ゴミについて学んでいる人の数



目標値は
年間720人だが、
集計した期間では
2021年のみ
達成している。

もっと多くの人
関心を持つよう
輪を広げる

「水島再生プラン」のすごいところ

目標値を数値化して定める

細分化

可視化

数値化

具体的な目標設定

個別のプランニング

定期的な見直し

プロセス

公表

活動者のやりがい

新規参入しやすい